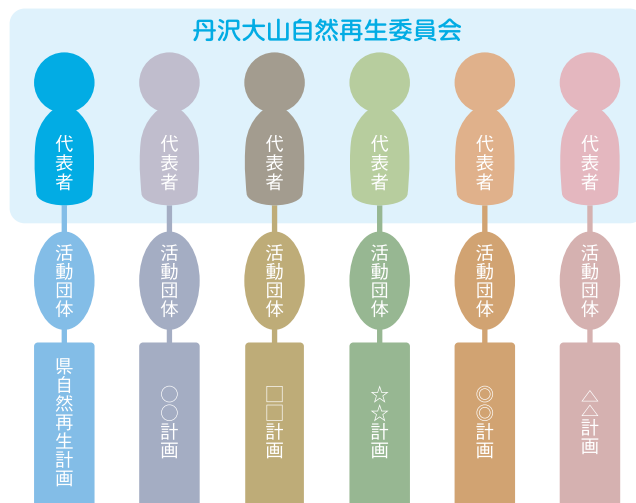


丹沢大山自然再生委員会は、「丹沢大山自然再生基本構想」を受け、丹沢で活動する団体、企業、マスコミ、専門家、行政などが参画して、平成18年に設立されました。

神奈川県自然再生事業や新たに企業が取り組む自然再生プロジェクトなど、多様な主体の協働による自然再生事業の評価と支援を行っています。

また、丹沢の自然環境の保全・再生をめざして団体や企業などが行う県民参加型の活動やイベントについて共催・後援しています。神奈川県も一員として参加し、丹沢大山自然再生計画について評価を受けるとともに、同委員会と連携・協働して、丹沢大山の自然再生に関する普及啓発や情報提供などに取り組んでいます。



丹沢大山自然再生委員会との連携と協働



委員会が団体等との共催で行う現地学習などの普及啓発事業に参画・協力しています。



委員会と学校教育との連携による教員研修や体験学習等に参画・協力しています。



委員会構成員が取り組む自然再生プロジェクトの企画・実施に協力しています。



委員会とともに公開シンポジウム等を共催しています。

自然環境・自然再生情報の発信

丹沢自然環境情報ステーション(e-Tanzawa)を運用して、自然環境や自然再生に関する情報を整備し、順応的な事業の実行に役立てるとともに、丹沢大山自然再生委員会ホームページとも連携して情報を発信しています。



神奈川県自然環境保全センターの紹介



自然環境保全センター



野外での自然観察会



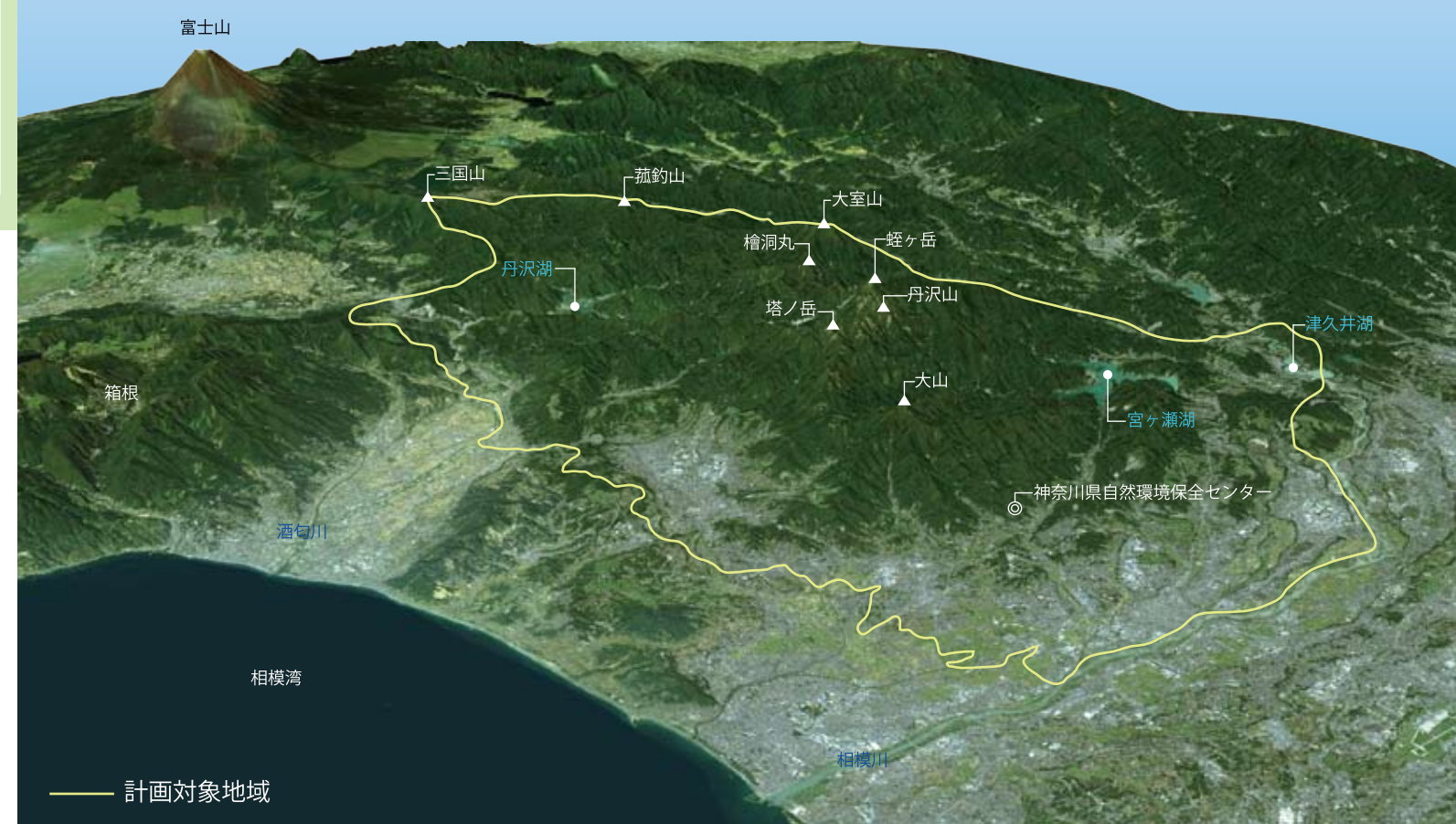
丹沢大山の自然を紹介する展示

神奈川県自然環境保全センターは、東丹沢山麓の厚木市七沢にある神奈川の機関です。

ブナ林の再生やシカの保護管理などに関する調査研究や事業、ボランティアとの協働連携や自然に関する普及啓発など、丹沢大山をはじめとした自然環境の保全・再生の取り組みを行っています。

県産木材を使って建てられた本館には、丹沢大山の自然を紹介するミニシアターやジオラマ(模型)などを備えた展示室があり、子どもから大人まで楽しく丹沢大山の自然を学べます。

小川や雑木林が広がる野外の自然観察園には、カワセミなど里山の多様な生き物が生息し、身近な自然を楽しむことができます。



問い合わせ先

神奈川県自然環境保全センター研究企画部自然再生企画課
〒243-0121 神奈川県厚木市七沢657
TEL (046) 248-0323(内線206) FAX (046) 248-0737
http://www.pref.kanagawa.jp/div/1644/

※地図は the Earth Science Data Interface より作成

表紙イラスト/中西のりこ

平成24年3月
神奈川県

丹沢大山自然再生計画について

丹沢大山の自然環境の衰退

首都圏の自然の宝庫として親しまれる丹沢では、1980年代から生態系に異変があらわれ、モミヤブナの立ち枯れ、植生の衰退、人工林の荒廃等が深刻化しています。



丹沢大山総合調査

平成16年度から平成17年度にかけて県民、学識者、企業など多様な主体による「丹沢大山総合調査」が行われました。その結果、「自然環境の劣化は、人間の営みの影響が積み重なり複雑に絡み合っており引き起こされている」ことが明らかとなりました。

調査結果をもとに、平成18年6月に自然再生の基本原則や目標、解決すべき課題と対策、実行体制などをまとめた「丹沢大山自然再生基本構想」が策定され、「丹沢大山自然再生委員会」のもとで多様な主体の協働による丹沢大山自然再生の取り組みがスタートしました。

丹沢大山自然再生委員会

丹沢大山自然再生基本構想により丹沢大山の自然再生に向けた基本方向を提示し、県、団体、企業などが取り組む事業をPDCAサイクルにより評価

丹沢大山自然再生基本構想

自然再生のための6つの基本原則

- 流域一貫
- 順応的管理
- 景観域を中心とした管理
- 統合的管理
- 参加型管理
- 情報公開

自然再生のための3つの手法

- 受動的再生手法
- 能動的再生手法
- 活用的再生手法

丹沢大山の4つの景観域と自然再生の目標

- ブナ林域** → うっそうとしたブナ林
 - 人工林・二次林域** → 生きものも水も健全で生業も成り立つ森林への再生
 - 里地里山域** → 多様な生きものが暮らし、山の恵みを受ける里の再生
 - 渓流域** → 生きものと美味しい水を育む安心・安全な沢
- 【全体目標】
人も自然もいきいきとした丹沢大山

計画策定・実行・見直し PDCAサイクル 実施状況の評価

国・市町村

関連する計画や事業等を実施

神奈川県

丹沢大山自然再生基本構想に基づいて「丹沢大山自然再生計画」を策定し、8つの特定課題の解決を目指す事業を実行しています

丹沢大山自然再生計画

計画期間：(第1期)平成19年4月～24年3月 (第2期)平成24年4月～29年3月

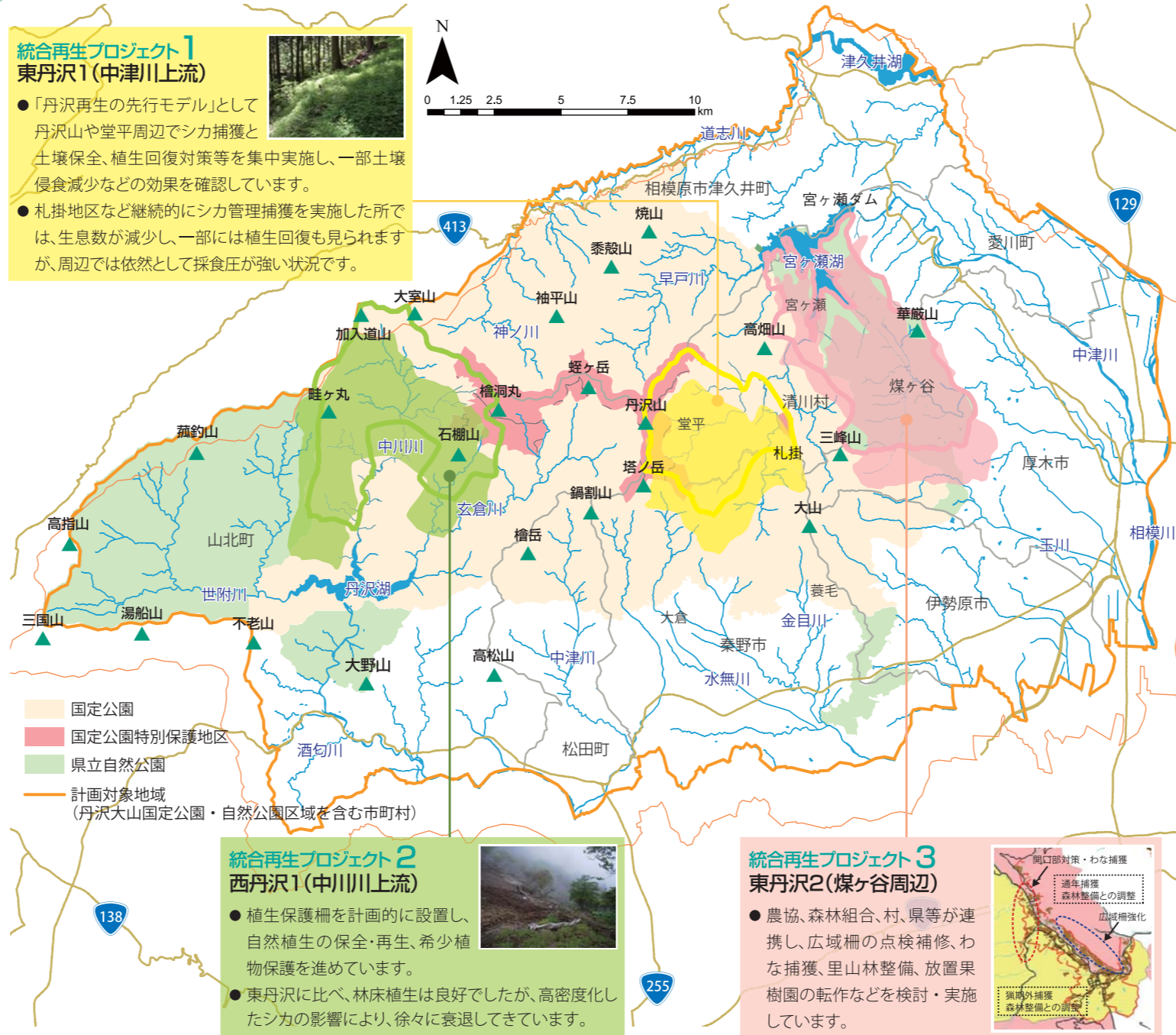
8つの特定課題

- ブナ林の再生
- 人工林の再生
- 地域の再生
- 渓流生態系の再生
- シカ等の野生動物保護管理
- 希少動植物の保全
- 外来種の監視と防除
- 自然公園の利用のあり方と管理方針

団体・企業

活動団体や企業が、それぞれの活動や自然再生計画を実施

丹沢大山の現状と第1期計画の実施状況



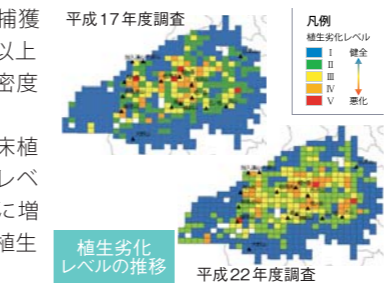
ブナ林の複合的要因による衰退

- 現地調査によって、ブナ衰退は、塔ノ岳～蛭ヶ岳、檜洞丸など稜線の南側に集中していることがわかりました。
- また、その原因は、大気汚染(オゾン)、植生退行、ブナハバチが複合的に影響したためであることがわかりました。
- 近年、ブナハバチの大量発生などにより、衰退のさらなる進行が懸念されます。



シカの高密度化が継続し、自然植生に強く影響

- H19以降捕獲頭数を増加し、管理捕獲と狩猟を合わせて毎年度1500頭以上捕獲しており、一部地域ではシカ密度の低下が見られています。
- その一方で、シカの採食により林床植生の後退がさらに進む「植生劣化レベルⅣ(オレンジ色)」の地域が新たに増え、丹沢全体では、依然として林床植生の後退が続いています。



土壌保全対策と下層植生の回復

- 各種土留筋工と植生保護柵を組み合わせた土壌保全対策を丹沢山～堂平等周辺で集中的に実施しています。
- その結果、落葉落枝流出の減少や土壌侵食減少などの効果が確認されています。



植生保護柵による下層植生と希少種の保護

- 高密度化したシカの影響で、植生保護柵がないと林床植生が生育しない状況です。
- そこで、高標高域を中心に植生保護柵を設置しています。
- これまでに柵内で県絶滅危惧種(植物)20種の生育を確認しました。



第2期計画の実施方針と構成事業

ブナ林の再生

ブナ林衰退の仕組みが判明しつつあることから、より事業に重点を移し、ブナハバチ対策やブナ林再生、さらには新たに林床植生が衰退している箇所の土壌流出対策を進めます。

- ブナ林生態系の健全性評価手法の開発
- ブナ帯森林再生技術の開発・現地適応化試験
- 大規模ギャップにおける森林再生試験
- ブナハバチの密度抑制手法調査
- 林床植生衰退・消失地における土壌保全事業

人工林の再生

地域特性に応じた適切な森林整備や県産木材の有効活用等を進めるとともに、新たにシカの生息状況に応じた森林整備を進めます。併せて森林モニタリングによって森林の状況を把握します。

- 公益的機能を重視した混交林等への転換
- 森林資源の活用による持続可能な人工林の整備
- シカ保護管理と連携した森林整備
- 県産木材の有効活用の促進
- 林道の改良と作業道の整備
- 森林モニタリングの実施

地域の再生

地域住民や関係団体等が連携して行う野生動物被害対策や里山保全・再生、環境に配慮した農業などの取り組みを支援し、地域一体の活動を進めます。

- 地域と一体となった野生動物被害対策やヤマビル対策、森林整備の実施
- 地域が一体となった自然再生活動への協力
- 里地里山の保全・再生・活用
- 環境保全型農業の推進

渓流生態系の再生

沢沿いの人工林の混交林化や溪畔林内の林床植生の回復、土砂流出対策等に加えて、渓流生態系の調査と保全・再生に向けた手法の検討を進めます。

- 渓流生態系の調査モニタリングと保全・再生手法の検討
- 魚類等による渓流環境の評価手法の検討
- ダム湖堆砂抑制のための上流における土砂流入防止対策
- 溪畔林の整備

シカ等の野生動物保護管理

高密度化したシカによる植生影響が継続しているため、高標高のブナ林域や水源林整備箇所などでのシカ捕獲を進めるとともに、ワイルドライフレンジャーを配置し、野生動物管理を進めます。

- 高標高域におけるシカの捕獲
- 森林整備と連携したシカ保護管理
- 生息環境整備モデル事業
- シカの定着解消のための個体数調整
- ワイルドライフレンジャーの配置
- 地域が主体の野生動物被害対策の取り組み促進
- 野生動物保護管理手法の検討

希少動植物の保全

植生保護柵設置等の希少種保護・回復事業を実施します。特に、高密度化が継続しているシカの森林生態系への影響把握を行いつつ、希少動植物の保全対策の検討を進めます。

- 希少動植物の保全手法・対策の検討
- シカ影響と森林生態系の動向調査の検討
- 希少種保全のための管理方針の検討
- 淡水魚類のモニタリングと保全方針の検討
- 希少植物の植生保護柵による保全
- 希少植物の流域間遺伝子解析と現地植え戻し

外来種の監視と防除

外来種の監視と未然侵入防止、侵入した外来種の防除に取り組むとともに、外来種の移入への配慮の観点から緑化手法の検討を進めます。

- 県民参加による外来種の監視と情報の収集
- アライグマ等の外来生物の監視
- 特定外来生物の防除方法の検討及び防除の実施(淡水魚類)
- 丹沢産の緑化種子生産・苗木の育成
- 現地表層土壌を活用した緑化手法の研究開発

自然公園の利用のあり方と管理方針

協働による登山道維持管理や利用状況モニタリング、パークレンジャー、自然公園指導員、ビジターセンター等の活動連携を進めつつ、自然公園における利用のあり方と管理方針を段階的に検討します。

- 登山道等の整備・維持管理のための登山情報収集
- 活動団体等との協働による登山道維持管理の実施
- 環境配慮型山岳公衆トイレの整備・維持管理
- トイレ紙利用マナーの普及
- 公園利用実態モニタリングの実施
- パークレンジャーによる活動
- 自然公園指導員による活動
- ビジターセンター等普及啓発拠点の活動
- 自然公園における利用のあり方と管理方針の検討

協働・普及啓発

自然再生委員会への参画と協力や団体、企業、市町村等との連携による保全・再生活動を進めるとともに、自然環境保全センター等の充実・活用や自然再生に関する情報などの蓄積・発信の充実と活用を図ります。

- 自然再生プロジェクトの推進
- 団体等との協働による丹沢再生の普及啓発
- 学校教育との連携等による環境学習の推進
- 自然再生委員会ホームページ等による情報提供・広報
- 丹沢大山クリーンピア21、丹沢の緑を育む集い、丹沢がラネット等による連携・協力
- 自然環境保全センターの充実と自然再生活動への活用
- 自然環境情報ステーションの機能拡充と活用

重点事業
実施可能性検討(フィジビリティスタディ)

丹沢の現状に即した事業を重点化